

下水道公社だより



しずくちゃん

- 清らかな 流れを未来へ 下水道 -



すいてきくん

2003年 4月号

目次

平成15年度を迎えて
公社定期人事異動について
市町村職員技術研修報告
ISO14001の取り組みについて

平成15年度を迎えて

財団法人 福島県下水道公社
理事長 平井 良一

新しい会計年度平成15年度を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

イラク情勢の不透明さと同様に、国内及び地域経済も不透明さを保ったまま、3月31日には大幅な株価下落となり、新年度も厳しい経済環境のもとで迎えることとなりました。

本年は統一地方選の年でもあり、政治・行政には最気浮揚の論議を期待するとともに、実態経済面での一日も早い回復を切に願うものであります。

昨年公表された「下水道普及率」によれば、福島県における普及率は東北6県の6番目、全国では39番目とのこと。速やかな下水道整備は、県民の生活基盤の向上、生活環境の向上のみならず、地球環境・生活水域の維持・向上に大きく寄与するものであり、厳しい財政状況のもとではありますが、是非とも積極的な取り組みをお願いしたいものであります。

さて、当公社が福島県より受託している阿武隈川流域下水道の維持管理業務につきましては、おかげさまで年々流入水量が増加してきており、

これに伴い処理すべき汚泥の発生量も増加しております。

このため、福島県がかねてより設置工事を行ってきた「汚泥溶融施設」が昨年7月より本格稼働となり、今後、汚泥の減量化・資源化に期待されるところであります。

今後とも、水処理及び汚泥溶融の適切な維持管理と効率的な業務処理に努めてまいりますので、皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

また、当公社は県及び市町村より出損頂いており、市町村の皆様にはご遠慮なく、当公社をご利用頂きますよう、併せてご案内申し上げます。



公社定期人事異動について

平成 15 年度下水道公社定期人事異動(4 月 1 日付)があり、次の方々が新たに着任しました。

【本社 業務部】

業務部長 鈴木 憲治

(前：県北浄化センター所長)

平成 13,14 年度と 2 年間の県北浄化センター勤務を経て、この度業務部長を拝命し、引き続きお世話になることとなりました。



浄化最前線のセンターには多くの水処理用設備機器があり、水質維持のためにはそれらの綿密な運転操作と、また汚泥処理や不測の事態への対処法など多様な業務が要求されること、そしてチームワークの重要性を学んで参りました。

これからは本社業務部の立場になるわけですが、センターでの経験を大切に、より合理的な浄化業務の推進はもとより、市町村への関連事業の支援等、「下水道の総合センター」としての役割を常に念頭におき、環境行政の一翼を担うものとして、水・地球環境の保全に少しでも貢献できるよう努力していきたいと考えておりますので、皆様方のお力添えをお願いいたします。また、業務に関するご意見、あるいは各種情報などありましたら随時当方までお寄せいただきますよう、併せてお願い申し上げます。

【県北浄化センター】

所長 谷 正晃

(前：県北建設事務所主幹兼次長)

この度の人事異動により、福島県から(財)福島県下水道公社県北浄化センター勤務となりました。よろしく申し上げます。



長年に渡り土木畑を歩んでまいりましたが、

下水道の分野は初めてであります。

県民の生活に密着した、下水を浄化処理するという、県北浄化センターの業務に携わること、多少とも地球環境保全に寄与できることを喜んでおります。

県北浄化センターは少人数の職場ですが、明るく、元気の職場にしたいと思っております。

現在、私は信夫山の北側からマイカー通勤しておりますが、趣味はゴルフや魚釣り(沖釣り)であります。機会があれば公社の皆さんと一緒に楽しい一日を過ごしたいと思っております。

【あだたら清流センター】

所長 本田 信栄

(前：土木検査課専門工事検査員)

水に関係する仕事は、水力発電・工業用水とこれが 3 回目となります。その度に自然の偉大さに驚きと感動がありました。これらに携わった経験が、少しでもよい水質と機器の効率的な運用に活用できればと思っております。



最初に、場内の施設に設置された特殊な機械が多いことと水処理の難しさにとまどっておりますが、水をきれいにしているレパデラ・ポルティケラ(汚水を浄化する微生物)等が活発に動き回っている様子に感激しつつ、元気を与えてもらいました。もちろん施設見学もできますので、だれにでも見ることができます。

福島より国道 4 号線で来ますと、二本松バイパス入り口左側に見えるお城造りの建築文化賞も受賞した、立派な建物があだたら清流センターです。

事務所の窓から見える安達太良の景色もなかなかのものでぜひ見に来てください。お待ちしております。

市町村職員 技術研修報告

当会社では、市町村長より要請のあった市町村職員に対して、下水道に関する実務研修を行っており、平成8年から14年度まで10町村10名の研修生を迎えています。今回、平成12年から14年度まで、3年間の研修を終えた金山町役場派遣加藤研修生の研修報告をご紹介します。

研 修 報 告

金山町役場派遣 研修生 加藤 拓

私は、平成12年度に金山町役場に採用され、研修生として下水道公社に3年間派遣されました。その期間に学ばせて頂いたことを報告いたします。

研修の概要として、最初に平成12年4月より2年間、業務部計画第1課において、下水道管路布設工事の実施設計図書作成方法等について学び、平成14年4月より9ヶ月間は、あだたら清流センターにおいて、処理場維持管理全般の研修を行いました。そして平成15年1月より3ヶ月間は、業務部企画管理課において流域下水道施設維持管理受託業務の管理事務及び排水設備工事責任技術者認定業務等を研修させて頂きました。

研修させて頂いた内容を報告させて頂きますと、計画第1課では、初めに実施設計図面の作成、その後数量・積算の方法について学び、最終的には一つの物件の設計図書全てを任せられ、なんとか完成させることができました。さらにこの研修期間に、実施設計を行う現場の確認や工事発注後の現場調査及び委託先市町村職員との協議等に何度も随行させて頂き大変参考になりました。

次にあだたら清流センターでは、標準活性汚泥法の汚水処理過程を理解し、透視度の測定、SS及びCOD測定等の水質試験なども実際に体験させて頂きました。また、定期的に実施する管路パトロールにおいては、酸素、硫化水素等の濃度測定、流量計の点検方法及びマンホール内、蓋及び周囲等の点検を学びました。さらに、公社では下水道の普及啓蒙活動として、地域住民や学校、官公署の方々に理解及び関心を深めて頂くため施設見学を受け入れており、主に学校関係の方々に説明する機会を与えて下さいました。下水道まつ

りには3年間毎年参加させて頂き、地域に密着した下水道づくり、施設及び資源の有効利用の重要性を学びました。



最後に企画管理課では、3ヶ月という短い期間でしたが、公社が実施している下水道排水設備工事責任技術者認定試験業務に携わり、金山町が定める下水道条例及び排水設備指定工事店規則等についても勉強する機会を与えて頂きました。

私が公社に来た当初の目標は、仕事面で、組織の一員として目的・目標の理解、自分の役割を把握しそれに対し達成意欲を持つ、問題意識を多方面に向ける及び資格を取得する。また、生活面ではあいさつが自然にできる、規則正しい生活に改めるという6点がありました。その目標で成長が少しあったと感じる項目は、あいさつが自然にできる、自分の役割を把握しそれに対し達成意欲を持つ、及び問題意識を多方面に向けるという4点ありますが、組織の一員として目的・目標の理解及び規則正しい生活に関しては全く至らず、皆さまに大変ご心配、ご迷惑をお掛けしまして申し訳なく感じております。

金山町に戻りましても、3年間の研修を生かし、これらの目標に対して自分自身のために、さらには金山町に貢献すべく、自己啓発していこうと考えております。また、公社の皆様方にも大変お世話になり、とても良い経験をさせて頂き、大変感謝している次第であります。ありがとうございました。

ISO14001の取り組みについて

当会社では、地球環境の保全と快適な水環境の創出をめざす下水道の経営管理の一貫として、環境マネジメントシステムを構築し、平成14年3月22日にISO14001の認証を取得しました。

取得してから現在まで、役職員が一丸となって取り組んできた内容について、簡単にご紹介します。

目的目標を設定して1年間取り組んできた内容は、下表に示すとおりです。また、その目標達成度については、概ね次のとおりです。

電気使用量（一般照明等）の削減、ガソリン使用量の削減、脱水汚泥の処分量の減量化については目標を達成したものの、その他に

については残念ながら目標を達成することができませんでした。

目標未達成の原因として考えられるのは、下水流入量の増加や施設設備の追加変更による維持管理の状況が常に変化することから、過去のデータを参考とした目標値の設定方法に問題があったのではと思います、現在どのように目的目標を設定すればよいのか模索しているところであります。

目標を達成するという事は、なかなか困難であることを含め、環境マネジメントシステムの運用管理の奥の深さを痛感しております。

E M S 管理

下水道公社の平成14年度環境目的・目標

環境方針	環境目的	主要施策	平成14年度環境目標
資源エネルギーの効率的な活用	電気使用量の削減	一般照明等 * 不必要な電灯の消灯の徹底 * 冷暖房の温度管理の徹底等	平成11年度比1%削減
		水処理系統の電気使用量 * 適正な水質管理と運転時間の調整	平成13年度単位流入量当りの電気使用量比2%削減
	ガソリン使用量の削減	* アイドリングストップの励行 * タイヤ空気圧の調整	平成11年度比1%削減
	コピー用紙の削減	* 両面コピー、裏面利用の徹底	平成13年度比1%削減
良好な水質の確保	放流水水質の自主基準値を設定し、遵守する	* BOD、SSの自主基準値の遵守	BOD = 15 mg / L SS = 30 mg / L
廃棄物の減量化・再利用化	脱水汚泥の処分量を減量化する	* コンポスト化による再利用 * 汚泥溶融による減量化	コンポスト量 = 3,600 t 溶融量 = 7,600 t
環境啓発	環境意識の啓発及び下水道普及率向上の啓発	施設見学及び下水道祭りの開催	施設見学者 3,600 名予定 下水道祭り 18,200 名予定

財団法人 福島県下水道公社

〒960-8103 福島市舟場町2番1号 福島県庁舟場町分館3F

TEL 024-524-3510(代)

FAX 024-524-3513

Homepage: <http://www.fspc.or.jp>

E-mail: kikakukanri@fspc.or.jp

本誌の発行については、業務部企画管理課までお問い合わせください。